

物性物理学C 第2回レポート 略解

I. 以下のように固定点を求め、そのまわりに線形安定性解析を行う。

(a) 固定点を求めると $x = 0, \pm 1$ 。それぞれの固定点について安定性解析をする。

$x = 0$ まわりで $x = 0 + \Delta x$ とおくと、

$$\frac{d\Delta x}{dt} = \Delta x - \Delta x^3 = \Delta x + O(\Delta x^2)$$

より不安定。

一方で、 $x = \pm 1$ まわりで $x = \pm 1 + \Delta x$ とおくと、

$$\frac{d\Delta x}{dt} = \pm 1 + \Delta x - (\pm 1 + \Delta x)^3 = -2\Delta x + O(\Delta x^2)$$

より安定

(b) 固定点を求めると $\frac{dx}{dt} = \frac{dy}{dt} = 0$ より $x = y = 0$ 。

$x = 0 + \Delta x$ 、 $y = 0 + \Delta y$ とおいて代入すると

$$\frac{d\Delta x}{dt} = -\Delta x(\Delta x - 1)(\Delta x + 1) - \Delta y = \Delta x - \Delta y + O(\Delta x^2)$$

$$\frac{d\Delta y}{dt} = \Delta x$$

よって行列表示すると

$$\frac{d}{dt} \begin{pmatrix} \Delta x \\ \Delta y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \Delta x \\ \Delta y \end{pmatrix}$$

この固有値は $(1 - \lambda)(0 - \lambda) + 1 = 0$ の解。つまり、 $\lambda^2 - \lambda + 1 = 0$ 。よって $\lambda = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$ となる。

よって、不安定である (unstable focus)。

(c) 固定点を求めると $x^n = 0$ より $x = 0$ 。それぞれの固定点について安定性解析をする。

$x = 0 + \Delta x$ とおいて代入し、展開する。

$n = 1$ のときは、

$$\frac{d}{dt}\Delta x = -(0 + \Delta x) = -\Delta x + O(\Delta x^2)$$

より、安定。 $n \geq 2$ の場合は

$$\frac{d}{dt}\Delta x = -(0 + \Delta x)^n = -(\Delta x)^n$$

線形の部分 (Δx の 1 次の部分) だけを考えると 0 なので中立安定のように思われるが、線形部分が 0 のときには、高次の項が重要となる。この場合は、 $(\Delta x)^n$ の項が最も効くはず (この場合はそれしかないが) である。

n が奇数の場合、常に、 $\Delta x < 0$ のときには $\frac{d}{dt}\Delta x < 0$ かつ、 $\Delta x > 0$ のときには $\frac{d}{dt}\Delta x > 0$ であるので、すべての Δx について 0 に収束していく。「安定」の定義は「どんな摂動に対しても固定点に収束する」ことであるので、 $x = 0$ は安定である。

一方、 n が偶数の場合には $\frac{d}{dt}\Delta x > 0$ 、 $\Delta x > 0$ のときには $\frac{d}{dt}\Delta x > 0$ である。よって、 $\Delta x > 0$ のときに固定点から離れていくので、不安定である。

II. (a) $z = x + iy$ として代入すると、

$$\frac{d}{dt}(x + iy) = (a + i\omega)(x + iy) - (1 + ib)(x^2 + y^2)(x + iy)$$

この右辺を展開して実部と虚部に分けると、

$$\frac{d}{dt}(x + iy) = [ax - \omega y - (x^2 + y^2)(x - by)] + i[ay + \omega x - (x^2 + y^2)(y + bx)]$$

これより、

$$\frac{dx}{dt} = ax - \omega y - (x^2 + y^2)(x - by)$$

$$\frac{dy}{dt} = ay + \omega x - (x^2 + y^2)(y + bx)$$

が得られる。

(b) $z = re^{i\theta}$ とおいて代入する。

$$\frac{d}{dt}z = \frac{dr}{dt}e^{i\theta} + ire^{i\theta}\frac{d\theta}{dt}$$

かつ、

$$\frac{d}{dt}\bar{z} = \frac{dr}{dt}e^{-i\theta} - ire^{-i\theta}\frac{d\theta}{dt}$$

より

$$\frac{dr}{dt} = \frac{1}{2} \left[\frac{dz}{dt}e^{-i\theta} + \frac{d\bar{z}}{dt}e^{i\theta} \right] = \Re \left[\frac{dz}{dt}e^{-i\theta} \right] = \Re \left[(a + i\omega)r - (1 + ib)r^3 \right] = ar - r^3$$

$$\frac{d\theta}{dt} = \frac{1}{2ir} \left[\frac{dz}{dt}e^{-i\theta} - \frac{d\bar{z}}{dt}e^{i\theta} \right] = -\frac{i}{r} \Im \left[\frac{dz}{dt}e^{-i\theta} \right] = -\frac{i}{r} \Im \left[(a + i\omega)r - (1 + ib)r^3 \right] = \omega - br^2$$

(c) (ii) の結果より、 r 方向の時間変化は $a > 0$ より $0 < r < \sqrt{a}$ で増加、 $r > \sqrt{a}$ で減少となる。つまり、 $r = a$ に収束する。つまり、リミットサイクルは $r = \sqrt{a}$ と書ける。また、その時の周期は $\frac{d\theta}{dt} = \omega - ba$ となるので、 $T = \frac{2\pi}{\omega - ba}$ である。

III. $\Delta\theta = \theta - \Omega t$ とおくと、

$$\frac{d(\Omega t + \Delta\theta)}{dt} = \omega + K \sin(\Omega t - (\Omega t + \Delta\theta))$$

変形すると

$$\frac{d\Delta\theta}{dt} = \omega - \Omega - K \sin(\Delta\theta)$$

$\Delta\omega = \Omega - \omega > 0$ とおくと、

$$\frac{d\Delta\theta}{dt} = -\Delta\omega - K \sin(\Delta\theta)$$

と書ける。よって、 $K < \Delta\omega$ のときには、常に $\frac{d\Delta\theta}{dt} > 0$ となり、同期しない。

一方、 $K > \Delta\omega$ のときには、 $\frac{d\Delta\theta}{dt} > 0$ となる領域と $\frac{d\Delta\theta}{dt} < 0$ となる領域ができ、その境界の $\frac{d\Delta\theta}{dt} = 0$ となる点が固定点となる。

引き込むのは $\Delta\theta = 0$ で負であり、そこから $\Delta\theta$ の減少とともに増加することから、 $\Delta\theta < 0$ で最初に $\Delta\theta$ 軸と交わる点が安定な固定点となる。よって $\sin \Delta\theta = -\frac{\Delta\omega}{K}$ となる点。つまり、 $\Delta\theta = -\arcsin \frac{\Delta\omega}{K}$ で引き込む。

IV. (a) 固定点を求めるため、 $a_n = a_{n+1} = a_\infty$ において、 $a_\infty = 1 - \frac{1}{2}a_\infty$ より $a_\infty = 2$ 。

$a_n = \frac{2}{3} + \Delta a_n$ において代入すると、

$$\frac{2}{3} + \Delta a_{n+1} = 1 - \frac{1}{2} \left(\frac{2}{3} + \Delta a_n \right) = \frac{2}{3} - \frac{1}{2} \Delta a_n$$

よって

$$\Delta a_{n+1} = -\frac{1}{2} \Delta a_n$$

より安定。

(b) 固定点を求めるため、 $a_n = a_{n+1} = a_\infty$ において、 $a_\infty = (a_\infty - 2)^2$ より $a_\infty = 1, 4$ 。それぞれについて線形安定性解析を行う。 $a_n = 1 + \Delta a_n$ において代入すると、

$$1 + \Delta a_{n+1} = (1 + \Delta a_n - 2)^2 = 1 - 2\Delta a_n + O(\Delta a_n^2)$$

よって

$$\Delta a_{n+1} = -2\Delta a_n + O(\Delta a_n^2)$$

より不安定。

$a_n = 4 + \Delta a_n$ において代入すると

$$4 + \Delta a_{n+1} = (4 + \Delta a_n - 2)^2 = 4 + 4\Delta a_n + O(\Delta a_n^2)$$

よって

$$\Delta a_{n+1} = 4\Delta a_n + O(\Delta a_n^2)$$

より不安定。

(c) 固定点を求めるため、 $a_n = a_{n+1} = a_\infty$ において、 $a_\infty = \frac{1}{2}a_\infty + \frac{k}{2a_\infty}$ より $a_\infty = \pm\sqrt{k}$ 。

$a_n = \pm\sqrt{k} + \Delta a_n$ において代入すると、

$$\begin{aligned} \pm\sqrt{k} + \Delta a_{n+1} &= \frac{1}{2} (\pm\sqrt{k} + \Delta a_n) + \frac{1}{2 (\pm\sqrt{k} + \Delta a_n)} \\ &= \frac{1}{2} (\pm\sqrt{k} + \Delta a_n) \pm \frac{1}{2\sqrt{k}} \left(1 \mp \frac{\Delta a_n}{\sqrt{k}} + \frac{\Delta a_n^2}{k} \right) + O(\Delta a_n^3) \\ &= \pm\sqrt{k} \pm \frac{1}{2\sqrt{k}} \Delta a_n^2 + O(\Delta a_n^3) \end{aligned}$$

よって、

$$\Delta a_{n+1} = \pm \frac{1}{2\sqrt{k}} \Delta a_n^2 + O(\Delta a_n^3)$$

Δa_n の絶対値が小さい時、0 に収束するので、 $a_n = \sqrt{2}$ は安定。

この方法は、平方根を求める際に非常に効率よく収束していきます。(Δa_n^2 しか残らないため。)

V. 略

VI. 略

講義のシラバス・資料など： <http://cu.phys.s.chiba-u.ac.jp/lecture/busseiC/>

北畑の連絡先： kurahata@physics.s.chiba-u.ac.jp, TEL:043-290-3723